

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1325 号	氏 名	鈴木大介
論文審査担当者	主 査 田中 直樹 教授 副 査 石塚 修 教授・浅村 英樹 教授・宇田川 信之 教授		

以前より、歯周病とメタボリックシンドローム（以下 MetS）の間には密接な関連があると報告されている。歯周病などの口腔疾患は、唾液検査により低侵襲で容易に検査することが可能であり、歯周病は MetS などの全身疾患との関連性が指摘されている。本研究の目的は、特定健診に加えて行う歯科検診に唾液検査を導入することにより、唾液性状と MetS の構成要素の関係について評価検討することである。

本研究では、2017年と2018年に長野県塩尻市、安曇野市の特定健診と歯科検診の受診者を対象とした。特定健診受診者は2017年が7848人、2018年が7084人で、そのうち歯科健診受診者数は2017年が1887人、平均年齢64.8歳、2018年が2279人、平均年齢67.6歳であった。横断研究は2017年に特定健診、歯科検診を受診した方を対象とした。縦断研究は2017、2018年に特定健診、歯科検診を受診した方を対象とし、781人平均年齢65歳であった。唾液検査項目（唾液緩衝能、唾液 pH、唾液中の白血球、タンパク、潜血、アンモニア、齶蝕原因菌数）と特定健診項目及び MetS の構成要素（喫煙習慣や飲酒などの生活習慣の調査および高血圧、脂質異常、糖尿病治療薬の投薬の有無、身長、体重、腹囲、血圧、トリグリセリド、LDL/HDL コレステロール、HbA1c、クレアチニン）の結果および変化を統計学的に検討した。

その結果、鈴木大介は次の結論を得た。

- ・高血圧：縦断研究にて、唾液タンパクと高血圧には、有意な関連性を認めた。
- ・糖尿病：縦断と横断研究で、唾液タンパクと HbA1c 値には有意な関連を認めた。
- ・腎障害：血漿クレアチニンの上昇に伴い、pH の上昇と唾液緩衝能の上昇する相関関係を認めた。
- ・メタボリックシンドローム：唾液緩衝能とトリグリセリドに相関関係を認めた。
- ・唾液検査に使用した Salivary Multi Test(ライオン株式会社,以下 SMT) : SMT は、5分という短時間で多数の唾液検査項目を効率よく網羅できた。特定検診を利用することで、初めて大規模に、唾液検査が歯周病だけでなく、MetS のスクリーニングに利用できることを示すことができた。

これらの結果により、唾液性状と MetS の構成要素との間に有意な関連を認め、特定検診に唾液検査が有効である可能性が示唆された。

主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。